

# 多摩支部会報第 60 号

2024 年 3 月 31 日発行

多摩支部第 21 回定時総会のご案内

2024 年度 明治大学校友会東京都多摩支部

## 第 21 回定時総会の開催

明治はひとつ、3C(Contact Communication Consensus)で繋ごう多摩支部の絆

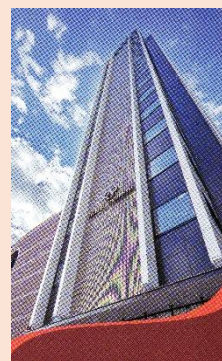


多摩支部 支部長 土屋栄一

東京都多摩支部は、今年 5 月で 2004 年の創立から 21 周年を迎えます。これもひとえに校友の皆様のご支援ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、多摩支部では、第 21 回総会を、次の通り開催する運びになりました。今年さらなる飛躍の年（龍のごとく）とするために、皆様のお力添えをお願いしたいと思っております。もとより、総会開催にあたっては「人と人の絆（ふれあい）」を第一に、ご参加の皆様に満足頂ける楽しい催しになることを確信しております。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

1. 日 時 2024 年 6 月 23 日（日）
2. 会 場 ホテルエミシア東京立川 4 階（JR 中央線立川駅北口徒歩約 3 分）
3. 内 容 第 1 部 公開講演会 13:00~14:00 講師；山中博史氏  
第 2 部 総 会 14:15~15:30  
第 3 部 懇 親 会 16:00~18:00 懇親会費 8,000 円



### 第 21 回多摩支部定時総会実行委員会

実行委員長：小島秀治（小金井地域支部長）

実行委員会

小金井地域支部、武蔵野地域支部、三鷹地域支部、東久留米地域支部、稲城地域支部



# 新たに校友になる皆さんへ

## 我等に燃ゆる希望あり 校友会長 北野 大



ご卒業おめでとうございます。今日から皆さんは明治大学の校友になりました。約 59 万人の校友を代表して、校友会への入会を心から歓迎いたします。

明治大学は創立以来約 140 年もの歴史を誇るいまや我が国屈指の名門私立大学です。皆さん方は先輩から受け継がれてきた伝統の下で学び、そして青春を謳歌しました。これは何にも代えがたい素晴らしい経験です。このような経験を可能としていただいたご家族、教職員はじめ関係の皆さまにぜひ感謝の気持ちを伝えてください。明治大学を卒業したことを誇りに、燃ゆる希望をもって頑張ってください。

皆さんの将来に幸多かれとお祈り申し上げます。

(MEIJI NOW「卒業生へ贈る言葉」より)

## 「個」の力を活かし、「前」へ 多摩支部長 土屋栄一



「皆さんは本日をもって明治大学を離れ、それぞれの役割で社会に貢献されることとなります。そこには、全国・全世界で活躍する約 59 万人の校友がいます。本学の校友の絆は、他大学には類を見ないもので、これは創立 140 年以上の歴史と伝統に深く根差すものといえるでしょう。先に社会で活躍する校友は、本日母校を巣立つ皆さんを温かく迎え、時に人生の道しるべとなる心強い存在になるものと確信しています。」この大六野学長の「卒業生へ贈る言葉」にもありますように多摩の地には 2 万 5 千人の校友がおり、地域支部も 21 を数え、「明治はひとつ、3C (Contact Communication Consensus) で繋ごう多摩支部の絆」のスローガンの下、校友の絆を深めております。新たに校友になられた皆さんは、母校で身につけた「個」の力を存分に活かし、夢に向かって「前」へ進んで欲しいと思います。皆さんのこれからの活躍を大いに期待しております。

(2023 年度明治大学卒業式—2024 年 3 月 26 日 (水))



# 多摩にいきづく 21 の絆



- |         |         |          |        |
|---------|---------|----------|--------|
| 八王子地域支部 | 小金井地域支部 | 国分寺地域支部  | 羽村地域支部 |
| 立川地域支部  | 村山地域支部  | 日野地域支部   | 福生地域支部 |
| 昭島地域支部  | 武蔵野地域支部 | あきる野地域支部 | 稲城地域支部 |
| 府中地域支部  | 国立地域支部  | 東久留米地域支部 |        |
| 小平地域支部  | 青梅地域支部  | 清瀬地域支部   |        |
| 町田地域支部  | 三鷹地域支部  | 多摩市地域支部  |        |

## 公開講演会

○テーマ：「ゴルフライフはまさにセレンディピティ」～パリ五輪 ゴルフ競技の期待と展望～

○講師：山中 博史 氏

1986年明大法学部卒、明大ゴルフ部副将、(公財)日本ゴルフ協会専務理事  
2016年リオ五輪 ゴルフ競技日本代表チームリーダー

## 懇親会アトラクション：明大少林寺拳法部による演武



関東学生大会 5 部門制覇 (2023.5) 明大スポーツより



# 文豪6人 多摩地域との絆

読売新聞 2024・3・16 より

## 遠藤周作、太宰治

たましん地域文化財団（国立市）の季刊誌「多摩のあゆみ」が最新193号で、「多摩の作家と人間像」と題し、吉川英治や遠藤周作、太宰治ら多摩地域ゆかりの作家を特集している。作品を発行された時代に読んだ人が年々減る中、地域とのかかわりや作品の魅力が再発見する手引になっている。

## 文豪6人多摩地域との絆

取り上げているのは、主に大正から昭和期にかけて活躍し、多摩地域に住んだ吉川英治（青梅市）、遠藤周作（町田市）、太宰治（三鷹市）、山本有三（同）、武者小路実篤（三鷹市、調布市）と、多摩地域を作品の題材にした土岐善麿の6人。原稿は、多摩地域に関連する文学館の学芸員らが寄せた。ほかに、多摩地域が登場する現代作家の作品も紹介している。

## 季刊誌で紹介「メッセージ時超える」

同財団の担当者は「知る人が少なくなっているとはいえ、文豪たちが伝えたメッセージは、時を超えて今も力のあるもの。特集に記された生きざまが、改めて作品に触れる機会になってほしい」としている。

田を選び、1964年から20年余り住んだ。健康を取り戻すと「沈黙」など純文学の代表作や、ユーモアあふれるエッセーを次々に発表。作家としての円熟期を迎えながら、生活や人生について思いを深めたという。

一方、吉川英治は44年から約10年間、現在の青梅市で過ごし、暮らしぶりを頻りに随筆で紹介するなどして地元への愛着を示した。太宰治は39年から亡くなる48年まで、疎開した一時期を除き、現在の三鷹市に住んだ。そこは、太宰を慕う学生ら若い弟子たちとの交流の場でもあったという。

令和6年2月29日発行（季刊）  
ISSN 0913-9680  
たましん地域文化財団



# 多摩のあゆみ



写真：宮本「オドントグロシムム」

特集 多摩の作家と人間像

たましん地域文化財団（国立市）の季刊誌「多摩のあゆみ」最新号で、「多摩の作家と人間像」と題し、多摩地域ゆかりの作家6人、主に大正から昭和期にかけて活躍し多摩地域に住んだ、太宰治（三鷹市）、山本有三（三鷹市）、武者小路実篤（調布市、三鷹市）、志岐善麿、吉川英治（青梅市）、遠藤周作（町田市）を取り上げ、「作品を発行された時代に読んだ人が年々減る中、地域とのかかわりや作品の魅力が再発見する手引き」になっている。そのなかで、「たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、ほんとうにいかさなかつたら、人間、うまれてきたかいたがないじゃないか。」（路傍の石）、その山本有三については、作家以外の活動が紹介されている。山本有三の幅広い公的な活動の端緒になった「明治大学文科専門部文芸科長」の就任について触れられている。また、山本有三が手掛けた「日本少国民文庫」の第五巻が宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか」の原点になっていることも紹介されている。（「たましん地域文化財団」の皆様にご協力頂き御礼申し上げます。）